

## 第2章 スポーツ・レクリエーション系施設の目指すべき姿

---

市民のスポーツ活動の拠点として、総合体育館が2施設あり、また単独施設の体育館が3施設あります。総合体育館のうち取手グリーンスポーツセンターには、体育室のほかに武道場や弓道場、室内プール、トレーニングルーム、アスレチック広場などを備えています。また、藤代スポーツセンターは、野球場や多目的グラウンド、テニスコート、ピクニック広場などを備え、それぞれ個人や団体で利用できます。市内には体育館のほかに、屋内スポーツ施設として藤代武道場があります。屋外スポーツ施設では野球場やサッカー場、テニスコートなど7施設(取手緑地運動公園やとがしら公園等)が設置されています。

スポーツ施設は、子供から成人、高齢者、障害者まで、あらゆる人々がそれぞれの生活環境に合わせて、心身ともに健康で、生き生きとスポーツに親しみ・楽しむことができる環境が必要ですが、建物や機械設備の老朽化への対応など、施設の維持管理に課題があります。

これらを踏まえて、以下のとおりスポーツ施設の目指すべき姿となる(1)から(4)を設定します。

## (1) 安全安心な施設

---

計画的な施設の維持・改修を行うことにより、安全安心な施設を目指します。

施設の維持管理に当たっては、利用者や利用団体の協力を得て行っていきます。

## (2) 地域拠点としての施設

---

障害の有無、年齢、性別等にかかわらず、誰もが利用しやすい環境の整備を進めるなど利用者の利便性を高め、また、地域住民の憩いの場や交流の場として地域コミュニティの再生・創出を図ることを目指します。

## (3) 持続可能な施設

---

運営方法の見直し等により維持管理コストの縮減を図るほか、ネーミングライツ・広告収入など、施設を持続的に維持していくために必要な財源の確保を目指します。

指定管理者制度をはじめとした公民連携手法の活用により、効果的・効率的な管理運営を検討します。

設備の更新、改修時においては、省エネルギー性能の優れた設備導入などにより、環境負荷の低減に配慮した、持続可能な施設を目指します。

## (4) 環境変化に対応した施設

---

複数の競技が楽しめることや、スポーツ以外の利用も視野に入れるなど魅力のある施設を目指します。

近隣市町と相互利用など地域資源の活用や、民間が保有するスポーツ施設の活用や公民連携手法の導入を検討します。

参考として、「取手市公共施設等総合管理計画」(平成 28 年(2016)7月策定)に掲載されているスポーツ・レクリエーション系施設の課題の内、未対応の課題と、改善の方向性は以下のとおりです。

### 課題

- ・ スポーツ施設は、健康増進の目的で、幅広い年齢層が利用する施設であり、他の自治体との相互利用を促進する方策と併せて、民間の運営ノウハウの活用を検討することが課題となっています。
- ・ 取手グリーンスポーツセンターは、今後建物やプール機械設備の改修、維持管理費の増大が考えられます。
- ・ 藤代スポーツセンターの体育館は、築 23 年を経過しているため、今後屋根の改修等を含め老朽化対策工事が必要となっています。
- ・ 勤労青少年体育センターは、耐震補強工事と併せて老朽化対策工事が必要となっているほか、現在無償にて貸し出しを実施しているため、受益者負担のあり方を検討する必要があります。
- ・ 藤代武道場は、築 34 年を経過しているため、老朽化対策工事が必要となっています。

### 改善の方向性

- ・ スポーツ・レクリエーション系施設では、利用状況や民間施設を含む周辺施設の配置状況を勘案し、老朽化への対応が求められる施設については、施設の集約・廃止等も視野に入れた検討をしていきます。併せてスポーツ施設は運営を民間に委託するなど、稼働率の向上と市民サービスの充実を推進していきます。
- ・ 施設の更新や老朽化対策工事時にはバリアフリー化や環境に配慮した仕様を検討していきます。
- ・ 取手グリーンスポーツセンターは、大規模施設であるため、改修コストを含めた総合的な検証と保全計画を検討していきます。また、総合体育館の特性を生かした更なる利用促進を検討していきます。
- ・ 藤代スポーツセンターは、老朽化対策工事と併せて、今後の利用促進に努めるとともに、施設の効率的な活用を検討していきます。
- ・ 勤労青少年体育センターは、耐震補強工事と老朽化対策工事の実施と併せて、今後の活用方針も含め、利用料金の徴収を検討していきます。
- ・ 藤代武道場は利用率が横ばいで推移しており、老朽化対策工事と併せて、今後の利用促進に努めるとともに、施設の効率的な活用を検討していきます。